



エコアクション 21 環境経営レポート

【対象期間】 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

【作成日】 2025 年 4 月 21 日

株式会社 スカイロード

住所：〒399-0037

長野県松本市村井町西 2 丁目 3 番 5 号

TEL：0263-87-8465

FAX：0263-87-8983

目次

- (1)事業概要 - 3 -
 - 会社概要 - 3 -
 - 事業規模 - 3 -
 - 環境保全の責任者及び担当者 - 3 -
 - ⑦実施体制 - 4 -
- (2)①環境経営方針 - 5 -
- (3)環境経営計画の内容、環境経営計画に基づき実施した内容 - 6 -
 - 取組内容 - 6 -
- (4)環境活動計画
 - 次年度の環境経営目標・環境経営計画 - 7 -
- (5)⑫基準年の環境負荷と環境経営目標 - 8 -
 - 2024 年度まとめ - 8 -
- (6)⑫電力使用量・燃料使用量 - 9 -
 - グラフ一覧表(前年比) - 9-10-11
- (7)⑫環境経営目標の実績・取組結果とその評価 - 12 - 13
- (8)⑬環境関連法案等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 - 14 -
- (9)環境上の緊急事態の対応に関する試行及びその対応策 - 15 -
- (1 0)⑭問題点の是正処置及び予防措置の結果 - 15 -
- (1 1)⑩事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策 - 17 -
- (1 2)⑮代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果 - 18 -
 - 1、電力使用量削減 - 18 -
 - 全体 - 18 -

(1)事業概要

会社概要

会 社 名	株式会社 スカイロード
代 表 者 名	代表取締役 熊谷 康晴
住 所	〒399-0037 長野県松本市村井町西 2 丁目 3 番 5 号
創 立	2013 年 6 月
資 本 金	2000 万円
建 設 業 の 許 可	長野県知事 許可 (特-30 号) 25000 号
許 可 有 効 期 限	令和 5 年 8 月 6 日～令和 10 年 8 月 5 日
建 設 業 の 種 類	建設業における舗装土木工事

事業規模

完 成 工 事 高	13,9 億円
従 業 員 数	33 名
床 面 積	本社 116m ²

環境保全の責任者及び担当者

E A 2 1 担 当 者	【EA21 責任者】工事部：鈴木英明 【EA21 事務局】営業部 上條 りほ
連 絡 先	【TEL】0263-87-8465 【FAX】0263-87-8983

実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を - 環境管理責任者を任命 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境目標・環境活動計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境目標・環境活動計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境活動レポートの確認
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標、環境活動計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会 (工程会議時に開催) (1回/週)	- 環境活動計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価
部門長	■営業部 - 工事受注、得意先拡大 - 環境配慮型工法等の提案、推進 - Dx推進 - SDGs、新卒社員獲得、社長と連携し外国人労働者の獲得 - 法規制の学習、研修の実施参加 ■工事部 - 現場施工、誠実なモノづくり - ICT施工の実施、使用燃料の削減 ■総務部 - 働き方改革の推進 - 事務所の節電、節水の推進 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 試行・訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

(2)①環境経営方針

株式会社 スカイロードは、【経営理念】に基づき、舗装土木工事業中心とした事業活動を通じて、地域社会の発展の実現を目指す基本理念のもと、地球温暖化問題への取り組みや地域環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

- 1、 環境関連法規制等を遵守したうえで事業活動をいたします。
- 2、 ガソリン・軽油を削減し二酸化炭素排出量削減に努めます。
- 3、 産業廃棄物の適正処理を行い、再資源化推進に努めます。
- 4、 現場、事務所での節水に努め水質汚濁防止に努めます。
- 5、 環境配慮型工法の推進を行います。
(保水性・遮熱性アスファルト舗装の提案の推奨)
- 6、 全従業員への環境教育を継続、実施いたします。
- 7、 環境経営の持続的改善を推進します。
- 8、 環境経営方針を全従業員に周知します。

制定日 2020年 11月11日

第2版 2022年 02月16日

株式会社 スカイロード

代表取締役 熊谷 康晴



株式会社 スカイロードは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

株式会社 スカイロードは、道路の「舗装」を通じ、クリーンで安心・安全なまちづくりの創造に貢献していきます。

私たちは、無理をせず今できることから優先的に取り組んでまいります。

(3)環境経営計画の内容、環境経営計画に基づき実施した内容

取組内容

取組目標	活動計画・項目	実施した内容	評価
電気使用量削減	空調温度の適正化	冷房時：28℃/暖房 20℃に設定 人感センサーの導入 石油ストーブの活用	○
	不使用箇所の消灯	お昼休み時の電気消灯 間引き点灯 帰社時の PC 機器のシャットダウン 蛍光灯→LED への交換（2025/2 実施）	○
ガソリン及び軽油 使用量削減	エコドライブの徹底 ・法定速度での運転 ・急ブレーキ・急発進ゼロ ・アイドリングストップ	移動距離を考慮した運転計画 エリア別の営業活動の実施 無駄な暖気を行わない	○
	適切な車両の整備	・ハイブリッド車の購入 ・月 2 回の車両点検の記録簿記入 ・工事使用機材の点検 ・エンジンオイル交換等定期的点検実施	○
廃棄物排出量削減	廃棄物分別の徹底	・分別回収箱等に種類ごとにイラスト設置 ・資源化可能な古紙などの再利用	○
水利用量削減	節水表示板の設置	・声かけ、各流しなどに節水を意識するよう節水表示を設置する	○
	節水方法の検討	・洗車時はバケツや高圧洗浄機を使用しこまめに止水 ・手洗い等を行い節水に取り組む	○
働き方改革	若手社員の育成 作業員の空調服導入 事務員の制服支給	・新卒社員の確保（就活セミナー参加・地元高校の就職担当へ挨拶） ・現場作業員へ空調服を導入で熱中症対策実施	△
SDGs	外国人採用への取り組み 雇用拡大	・インドネシア人の技能実習生、特定技能者の雇用促進（2024 年 10 月 2 人入社）	○
DX 推進	勤怠管理（i-サ導入） 情報共有	・勤怠システムの運用 ・LINEWORKS 及び Zoom 使用、リアルタイム共有指示の推進運用	○

(4) 環境活動計画

次年度の環境経営目標・環境経営計画

取組目標	目標値	活動計画	目標達成手段
電気使用量削減	17,449 kg-CO ²	空調温度の適正化 不使用箇所の消灯	冷房時：28℃/暖房 20℃に設定 人感センサーの導入 石油ストーブの活用 お昼休み時の電気消灯 帰社時の PC 機器のシャットダウン
ガソリン及び軽油 使用量削減	224,857 kg-CO ²	・エコドライブの徹底 ・法定速度での運転 ・急ブレーキ・急発進ゼロ ・アイドリングストップ ・適切な車両の整備	移動距離を考慮した運転計画 エリア別の営業活動の実施 無駄な暖気を行わない ハイブリット車の購入 月 2 回の車両点検の記録簿記入 工事使用機材の点検 エンジンオイル交換等定期的点検
廃棄物排出量削減	40.3 t	シュレッダー廃紙のリサイク ル化 廃棄物分別の徹底	・分別回収箱等に種類ごとにイラスト設置 ・資源化可能な古紙などの再利用 ・帳票見直しによる印刷物の削減 ・混廃の禁止 ・作業ミスによる排気量の削減
一般廃棄物の削減	749 kg	分別の徹底 事務資材の 3R	帳票見直しによる印刷物の削減 混廃の禁止
水利用量削減	96 m ³	節水方法の検討	・洗車時はバケツや高圧洗浄機を使用しこまめに止水 ・節水シールの貼付とポスター掲示
働き方改革	2 人	若手社員の育成 作業員の空調服導入 事務員の制服支給	・新卒社員の確保（就活セミナー参加・地元高校の就職担当へ挨拶） ・現場作業員へ空調服を導入で熱中症対策実施
SDGs	1 人	外国人採用への取り組み 雇用拡大	・インドネシア人の特定技能者の雇用促進
DX 推進		情報共有	・LINEWORKS 及び Zoom 使用、リアルタイム共有 指示の推進運用 ・クラウド管理、ソフトウェア更新
環境性能向上およびサー ビスの改善	提案：2 件 施工：1 件	環境配慮型工法の提案・ 施工	・中温化アスファルト舗装の提案施工 ・リペットペープの提案・施工

(5)⑫基準年の環境負荷と環境経営目標

2024 年度まとめ

環境目標	項目	基準年 (実績)	前年度実績	年度目標	年度実績	中期目標	
		2020年度 (通年)	2023年度 (通年)	2024年度 (通年)	2024年度 (通年)	2025年度	2026年度
		19/4~20/3	23/4~24/3	24/4~25/3	24/4~25/3	2020年度実績比 3%削減	2020年度実績比 3.1%削減
1、二酸化炭素 排出量削減	Co2総量 kg-Co2	240,373	198,140	234,364	192,620 -22%	233,162	232,921
①電力使用量の削減	電力使用量 Kwh	17,989	16,746	17,540	22,001 +20%	17,449	17,431
	Co2 kg-Co2	8,562	7,686	8,348	9,262 +10%	8,305	8,297
②燃料(ガソリン) 使用量の削減	ガソリン使用 量(L)	25,780	18,261	25,136	20,304 -24%	25,007	24,981
	kg-Co2	59,811	42,365	58,316	47,106 -24%	58,017	57,957
③燃料(軽油) 使用量の削減	軽油使用 量(L)	66,666	55,968	65,000	51,694 -26%	64,666	64,599
	kg-Co2	172,000	144,397	167,700	133,371 -26%	166,840	166,668
④燃料(灯油) 使用量の削減	灯油使用 量(L)	1,847	1,483	1,801	1,157 -56%	1,792	1,790
	kg-Co2	4,599	3,692	4,485	2,881 -56%	4,461	4,456
2、一般廃棄物 排出量の削減	一般廃棄物 排出量(kg)	772	890	753	880 +14%	749	748
3、産業廃棄物 排出量の削減	産業廃棄物 排出量(kg)	41550	58,795	40,512	75,874 +47%	40,304	40,262
4、水道使用量の削減	水使用量 (m3)	99	94	97	87 -11%	96	96
5、化学物質使用量の削減	化学物質使用量 (kg)	アスファルト混合物・乳剤・セメント等を使用しておりますが、これらは舗装工事において必要不可欠な主材料であり、使用量を削減することが施工品質や安全性に影響を及ぼす可能性があります。					

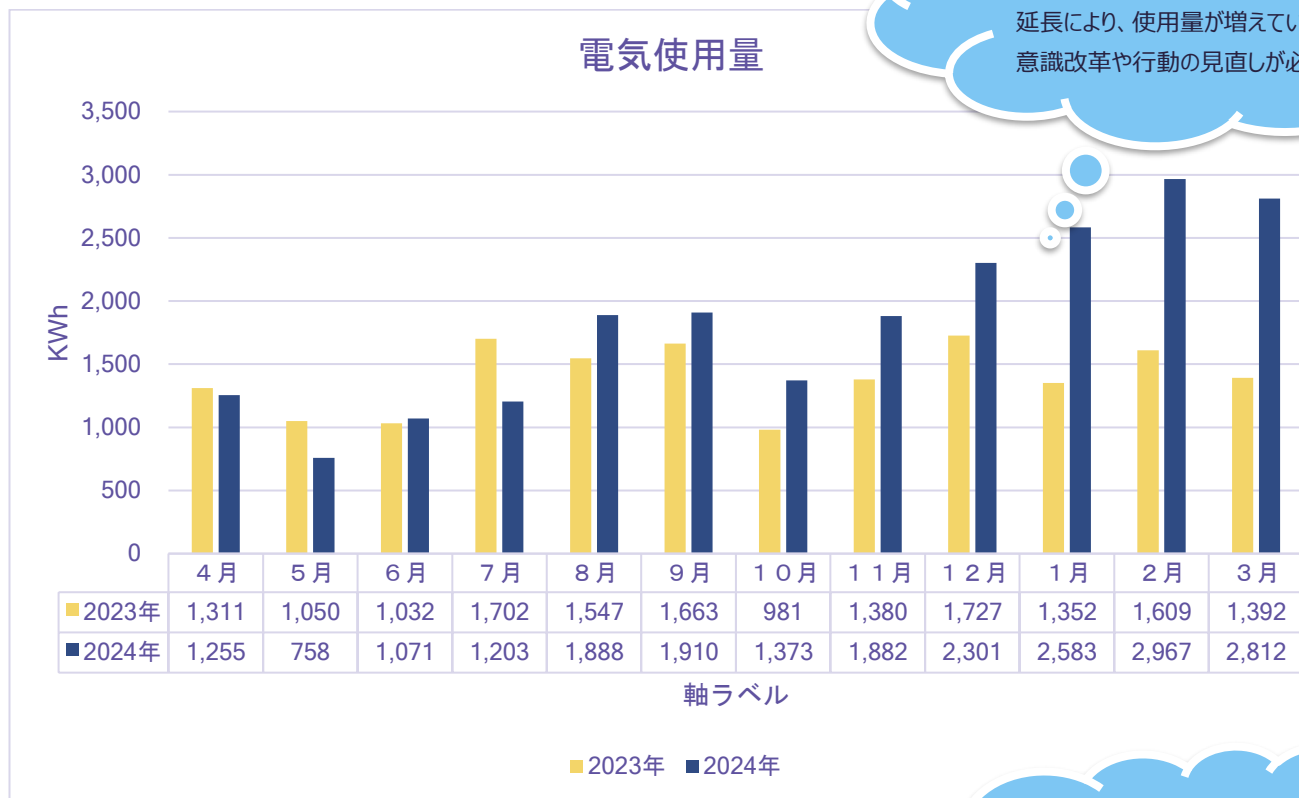
※電力の Co2 排出係数は 2023 年は 0.459 kg-Co2/kWh を用いて算出しています。

※使用電力会社は中部電力です。

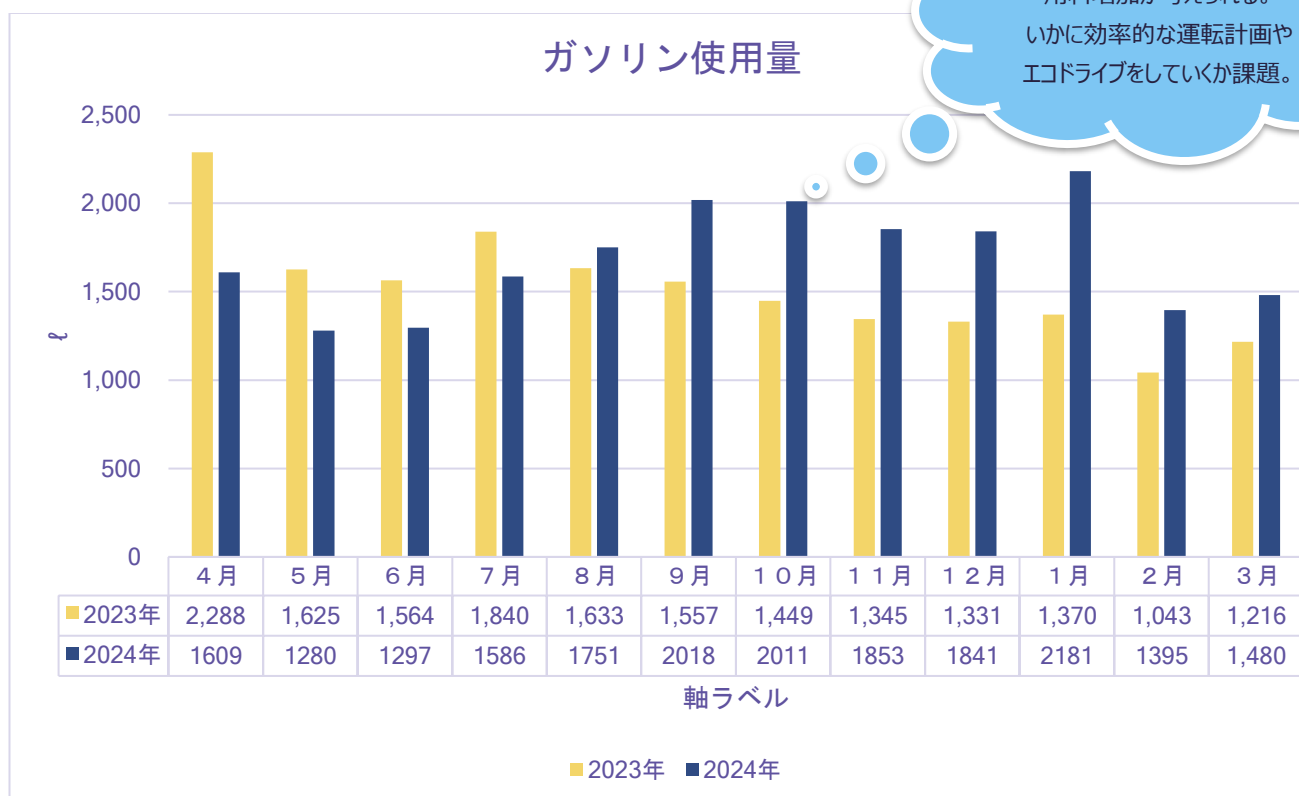
(6)⑫電力使用量・燃料使用量

グラフ一覧表(前年比)

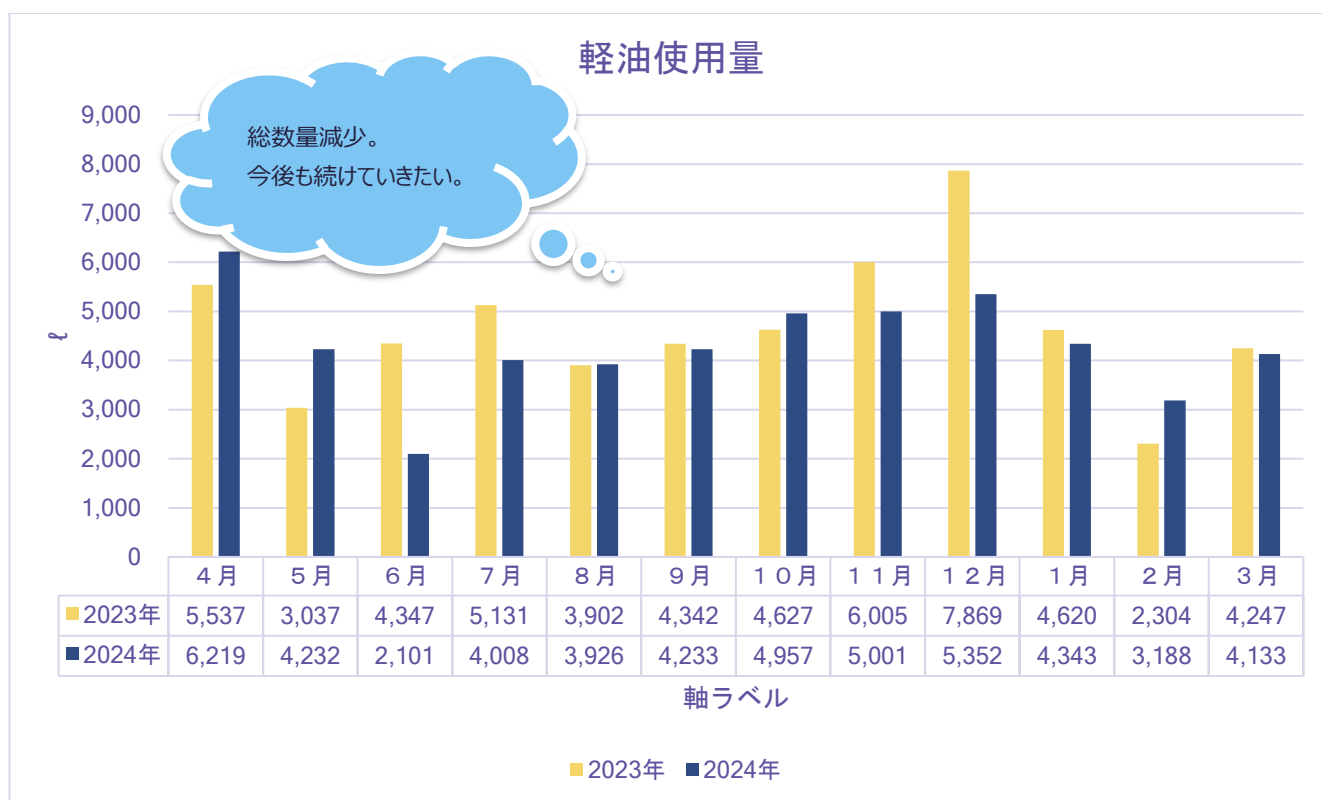
● 電力のグラフ



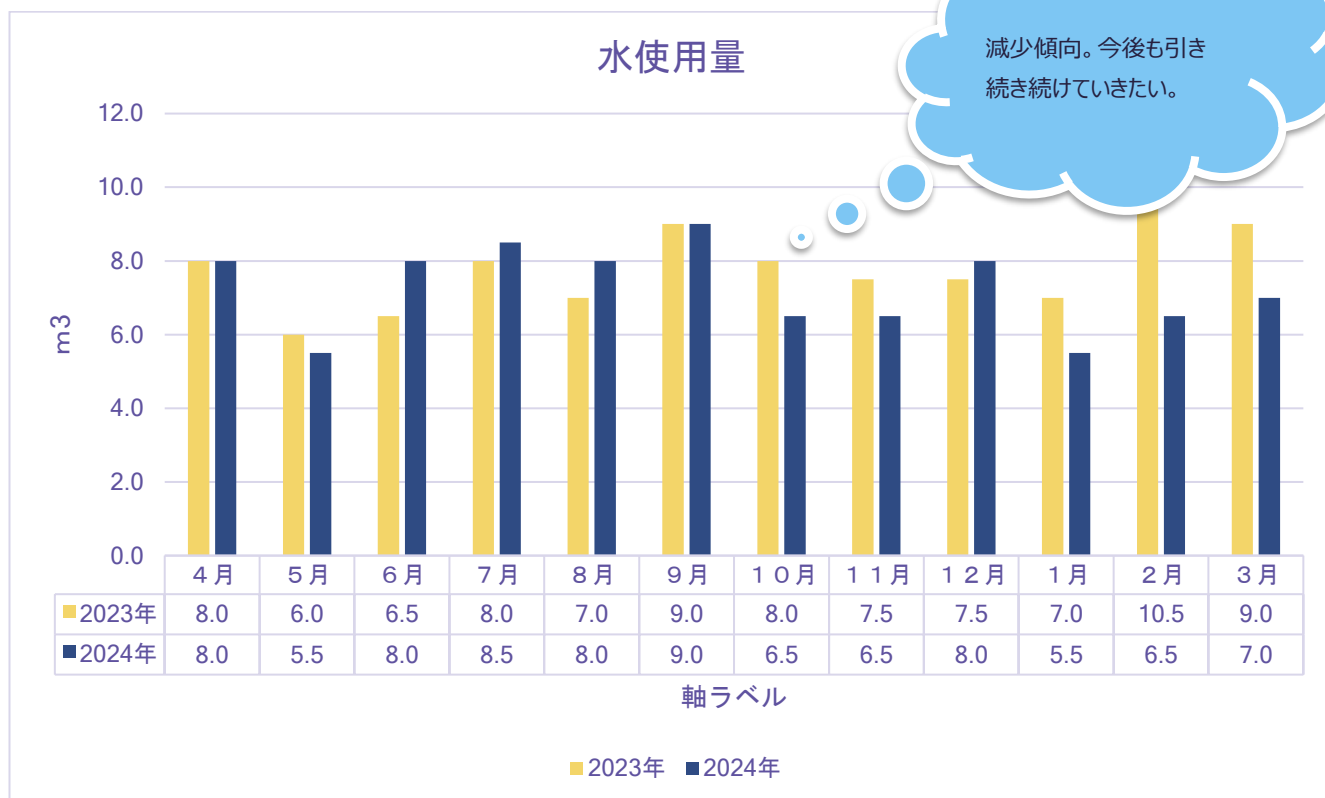
● ガソリンのグラフ



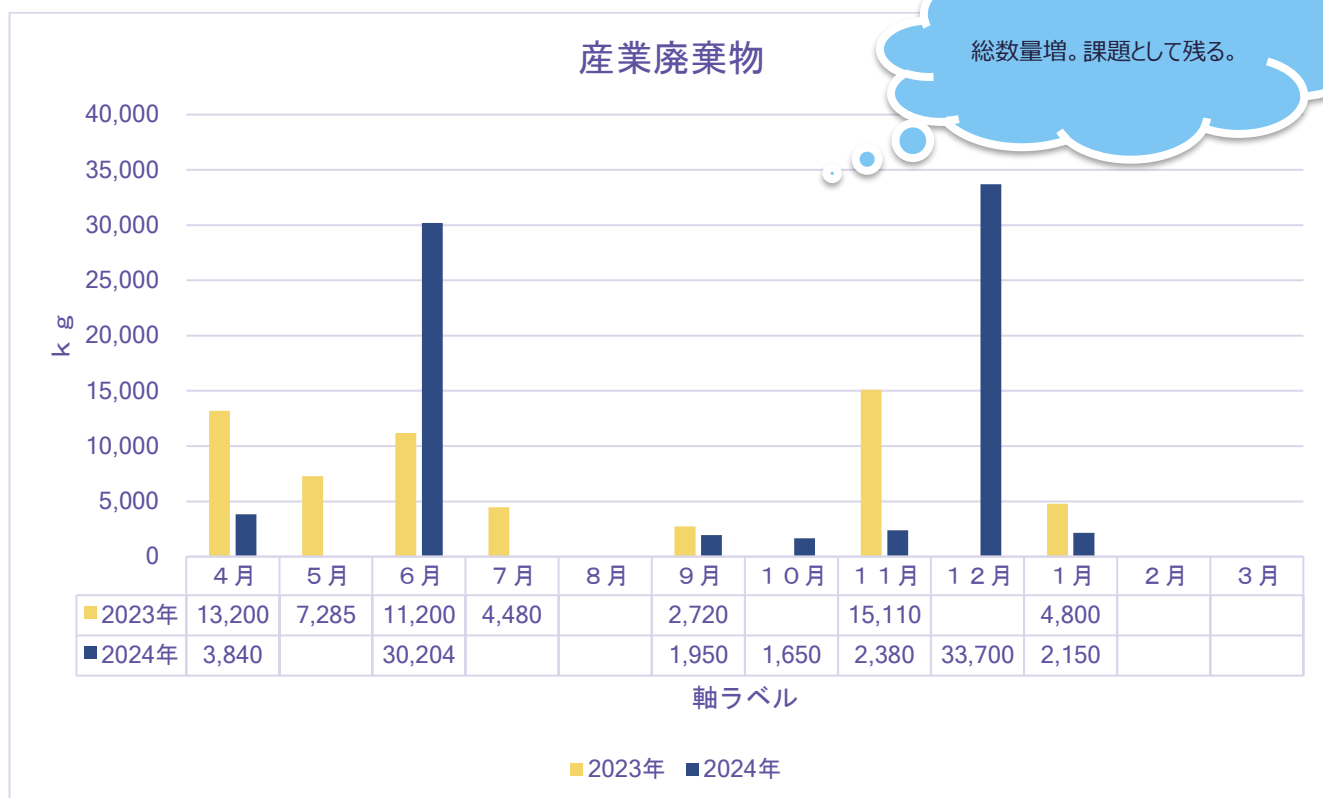
● 軽油のグラフ



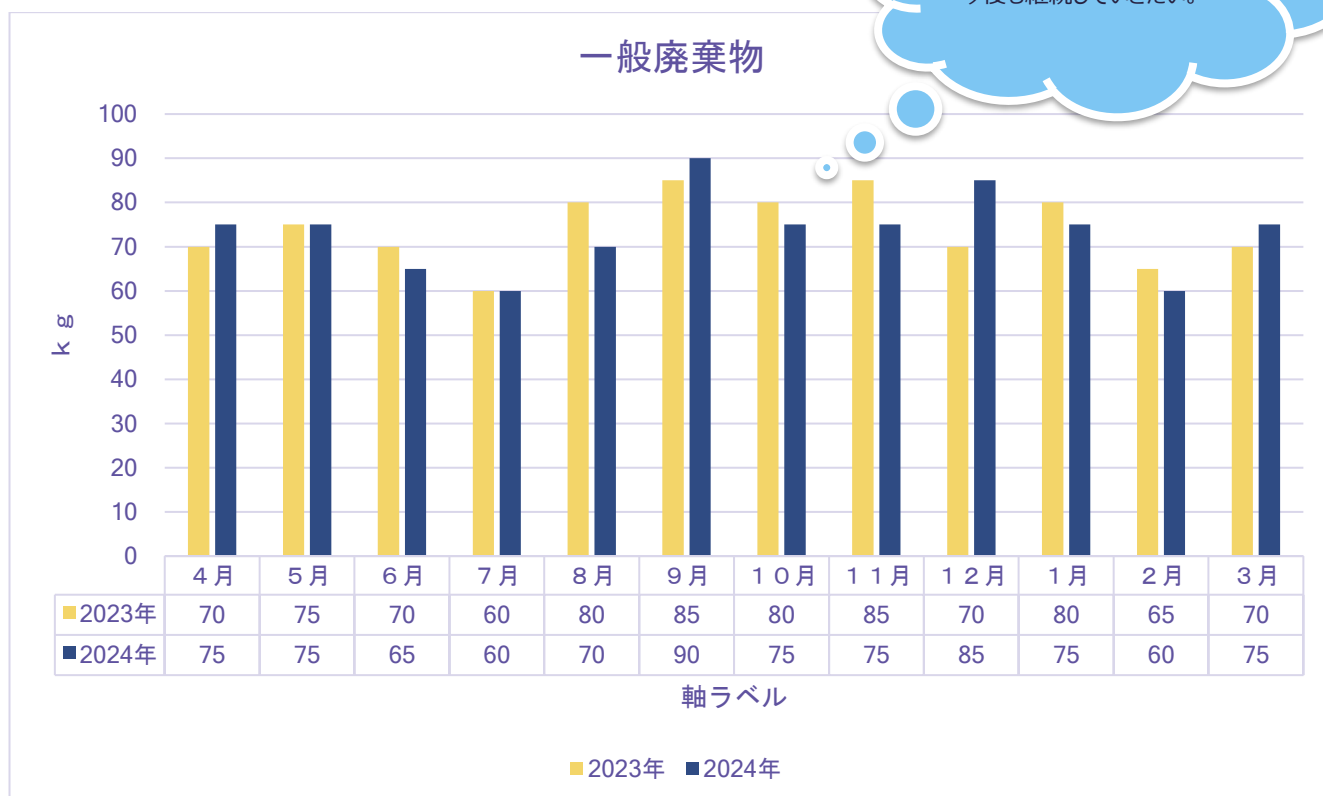
● 水のグラフ



● 産業廃棄物のグラフ



● 一般廃棄物のグラフ



(7)⑫環境経営目標の実績・取組結果とその評価

環境活動計画	取り組みとその評価			
	環境目標 3%削減	実績	達成区分	評価及び次年度の取り組み
1、Co2 削減	234,364 kg-Co2	192,620 kg-Co2	-41,744kg-Co2  目標達成!	●一人一人の意識改革によるもの
①電力使用削減 ・エアコンの温度管理 ・照明や OA 機器消灯の徹底	17,540 kWh	22,001 kWh	+4,461kWh  課題	●不使用箇所の消灯の徹底 ●空調機器の徹底管理 ●エアコンフィルターの清掃
②燃料(ガソリン)使用削減 ・車両の点検設備の徹底 ・エコドライブの徹底	25,136 ℓ	20,304 ℓ	-4,832 ℓ  目標達成!	●エコドライブ等の意識 ●適正な車両の整備 ・月 1 回の日常点検実施
③燃料(軽油)使用削減 ・低燃費の車両使用	65,000 ℓ	51,694 ℓ	-13,306 ℓ  目標達成!	●エコドライブ等の意識 ●適正な車両の整備 ・月 1 回の日常点検実施
④燃料(灯油)使用量削減 ・低燃費の重機の使用	1,801 ℓ	1,157 ℓ	-644 ℓ  目標達成!	●事務所温度を 2 度下げる ●服装などで調整
2、一般廃棄物排出量削減 ・廃棄物分別の徹底	753 kg	880 kg	+127kg  課題	●目標達成はできなかったが、昨年度よりは減少している。引き続き、裏紙の使用やペーパーレス化の推進、分別の徹底を行ってきたい。
3、産業廃棄物排出量削減 ・廃棄物分別の徹底	40,512 kg	75,874 kg	+35362  課題	●分別の徹底
4、水使用量の削減 ・節水意識の喚起 ・節水表示板の設定	97 m3	87 m3	-10m ³  目標達成!	●節水意識の上昇 ●節水表示の効果 ●洗浄方法の検討
5、働き方改革	2 名新規 採用	0 名	 課題	●新卒採用 0 名 ●社員の定着率が課題

6、SDGs	外国人労働者獲得	4 名採用	目標達成!	外国人労働者 4 名の採用
7、DX 推進	DX 化	新部署設立	目標達成!	広報担当採用 SNS 情報発信
8、環境教育	2 回	2 回	目標達成!	産廃法・独禁法

(8)⑬環境関連法案等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 適用させる主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用される法則性	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	評価
廃棄物処理法	○再生資源の利用 ○特定副産物に係る再生資源の利用の促進	○
建設リサイクル法	○特定建設資材を分別解体等の実施、 再資源化等の実施	○
オフロード法	○基準適合表示等が付された特定特殊自動車の使用	○
労働安全衛生法	○労働者の健康の確保	○
省エネ法	○エネルギー使用量のデータまとめ	○
グリーン購入法	○エコマーク付文具等の購入 ○カウネットによるグリーン購入	○

※環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反及び訴訟はありませんでした。また関係当局による違反等の指摘・苦情は過去 3 年間ありません。

(9) ⑪環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練の結果

現場作業員において、気温の上昇に伴い熱中層の疑いがある作業員が出た場合の想定訓練を行った。

日時	2024 年 6 月 10 午後 14 時～15 時
目的	熱中症の作業員が出た場合、迅速な対応・処置ができるようにするため
手順	① 熱熱中症の疑いがある作業員を涼しい環境下への避難 ・意識障害・痙攣・ふらつき等が代表的な症状の一つ ② 脱衣と冷却 ・涼しい環境下へ移動でき次第、衣服を緩め体を冷却することが大切・ ・首元や脇などを冷やすのが効果的 ③ 塩分・水分の補給 ・スポーツドリンクや食塩水など水分・塩分を補給することが大切 ④ 医療機関へ搬送をする ・意識障害や自力での水分摂取ができない場合など搬送する
評価	適切な処置方法を学ぶことで、いざというときに、実践できるように確認することが出来た。 また、現場に保冷剤や熱中症対策キットなどを持っていくようにした。

※想定した手順の確認を行う訓練でした。2024 年度には熱中症者は出ておりませんが、手順の確認により、いざというときに実践できることから有効な訓練であったと評価します。

(10)⑭問題点の是正処置及び予防措置の結果



スペースの効率的な利用と整理を目的として、
駐車区画線を設置。

各車両が正確に指定されたスペースに駐車するようになり、駐車場の秩序が改善。



自転車が不規則に駐車され、
安全性の懸念があった。

駐輪スペースを明確にするために枠線の設置をした。
利用者は指定された場所に自転車を止めるようになり、
安全性が向上した。

駐輪・駐車スペースが明確化され、整理・整頓が促進され、安全性が向上した。
今後も継続して改善活動を行い、駐車場の環境維持・向上に努める。

(11)⑩事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策

● 災害時の対応

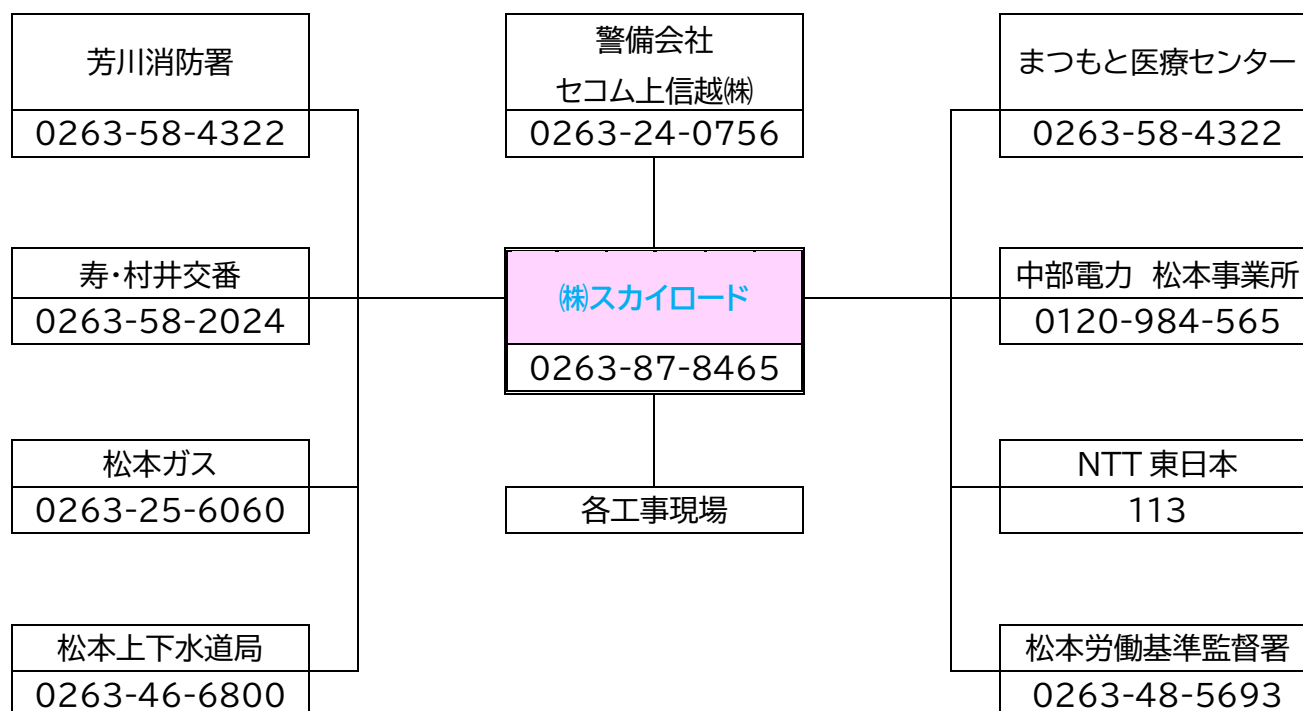
災害や事故の発生を想定し、下記の通り訓練を行う。

いずれの場合も社員・作業員は近隣の安全を第一に考え行動できるように心掛ける。

想定される緊急事態	緊急時の対応	訓練内容
地震・台風・異常気象による災害	・常に最新の情報収集に努める ・避難場所、避難経路への誘導	・消火器の設置場所と使用方法の確認 ・避難場所、避難経路の確認 ・ガスボンベ等の漏洩、転倒の確認
火災	・消防署への連絡 ・避難指示 ・初期消火活動	・使用機材の点検、確認
作業現場における事故	・消防署等関係機関への連絡 ・負傷者の救助 ・状況報告、再発防止対策	

● 緊急時の連絡体制

災害や事故等緊急事態時の連絡体制



(12)⑮代表者による全体の評価と見直しの結果

1、電力使用量の削減

電力使用量に関して、目標を下回る結果となりました。主な原因として、IT 機器の稼働増加や、休憩室へのモニター設置等による電力需要の増加が考えられます。また、業務の効率化や快適な職場環境づくりを進める中で、空調や照明の使用時間が長くなる傾向も影響しています。今後は、これらの使用状況を踏まえ、より効率的な機器の選定や、使用時間の見直し、LED 照明の導入拡大、こまめな消灯や電源オフの徹底など、日常的な節電意識の向上を図ってまいります。

全体(実施体制含む)

昨年度同様、社員の意識改革を促すために情報発信を行いました。その結果、少しずつではありますが、社員の理解と行動に変化が見られるようになってきました。また、ハイブリッドカーの導入にも成功しましたが、全体の車両数が増加しているため、エコドライブの意識向上を図っていきたいと考えています。

さらに、DX 化の推進により、グループウェアを活用した情報共有や SNS での情報発信が定着しつつあります。これにより、業務効率の向上と環境への配慮の両立が進んでいます。加えて、休憩室に設置したモニターにより、社員がリアルタイムで情報を確認できる環境も整いました。

今後も働きやすく、かつ環境に配慮した職場づくりを継続してまいります。ただし、目標を達成できた項目もある一方で、昨年度よりも CO² 排出量が増加している項目もあります。この増加の原因は一つに絞り込むことは難しく、社員数の増加だけでなく、現場の場所や特性による影響も考えられます。引き続き、これらの要因を詳細に分析し、エコアクションの取り組みを強化し、持続可能な環境づくりを目指してまいります。

令和 7 年 4 月 24 日
株式会社 スカイロード 代表取締役
熊谷 康晴